医療法人 藤仁会 藤村病院

開院以来130余年、実践してきたコミュニケーション医療

質の高い医療・介護サービスで地域の信頼される医療機関へ

医療法人 藤仁会 理事長
藤村（ふじむら） 作（さく） 氏

藤村病院は1886（明治19）年6月、その前年に県立千葉医学校（現千葉大学医学部）を卒業したばかりの藤村悠重（ながしげ）が、中山道上尾宿本陣跡に藤村医院を開院したことに始まる。ある時は馬を、またある時は人力車を利用して川越、指扇そして桶川と往診し、地域医療に貢献した。130余年が過ぎ、今も彼のDNAはしっかりと受け継がれ、悠重の曾孫となる5代目藤村作理事長によって医療から介護、そして福祉の分野まで取り組む医療法人藤仁会として脈々と息づいている。

住民との「ふれあい」を大切にした地域に密着した医療、地域の信頼に応える安心な医療、そして地域が求める医療・介護・福祉の一体化などをモットーに地域の医療から介護までトータルで取り組む藤村理事長に、藤村病院の歴史やこれから目指す地域医療の在り方などについてお聞きした。

LEADER'S PROFILE

1967年（昭和42）年上尾市生まれ。95年獨協医科大学卒業、同年獨協医科大学越谷病院外科に勤務となる。2000年藤村病院非常勤医師、03年藤村病院に副院長として着任。04年介護老人保健施設「ふれあいの郷あげお」を施設長として立ち上げる。06年藤村病院5代目院長に就任。08年藤仁会理事長に就任。趣味はスキー、ゴルフ、野球と、シーズンに応じて様々なスポーツを楽しむスポーツマンでもある。

1886（明治19）年、中山道上尾宿本陣跡に開院

――開院されて130余年が過ぎますが、開院の経緯から沿革についてお教えください。

当院を開院した初代院長藤村悠重（ながしげ）は私の曾祖父にあたり、1865（慶応元）年に千葉で生まれ、85（明治18）年に県立千葉医学校（現千葉大医学部）を卒業しています。埼玉県や上尾市には縁もゆかりもありませんでしたが、83（明治16）年に日本鉄道第一区線（現JR高崎線）が開通し上尾駅が開業したことなど、埼玉県の中山道沿いの地域社会の発展に目をつけて、開院場所としたのではないでしょうか。86年6月には上尾宿本陣跡に土地を求め、8畳1間の藤村医院の開院に至りました。往診には馬や人力車を利用して、桶川や川越、指扇辺りまで出向いていたようです。1912（大正元）年に、木造平屋建ての洋館を新築し、ようやく診療所としての体裁がととのった感じです。

悠重が1944（昭和19）年に79歳で亡くなると、東京港共済病院の院長をしていた私の祖父、茂（しげる）が、49歳で2代目院長になりました。終戦後には、薬や衛生材料不足に悩まされながらも地域医療に努めたと聞いております。茂はその後、約30年に渡り藤村医院の院長を務めました。そして1974（昭和49）年に3代目の院長に就任したのが父の秀（ひで）です。

父は1980（昭和55）年に医療法人藤村病院を設立し理事長と院長を兼任しています。86（昭和61）年には医療法人藤仁会と改称し、現在の組織の基盤を作ってくれました。

私は、父が体調を崩したため勤務していた獨協医科大学越谷病院からこちらへ非常勤医師として

転院しました。2003（平成 15）年に副院長、そして 3 年後の 06 年 5 代目院長になりました。初代が開院してから、今年 2019（令和元）年は、お陰様で 134 年になります。

――作先生はいつ頃から医者になろうと決めていらしたのですか。

小・中学生の頃は、医者になろうなんて考えてもいませんでした。両親からも特に医者になれという“プレッシャー”もなく、ずっと、いわゆる文系でしたが、建築などにも興味はありました。

医者については、父親の働く姿を見ていて“いつも忙しそうだな”と漠然と感じていました。高校生になり「何になりたいか」から「何になれるか」と将来の職業を考えた時に、医者という道が広がったと記憶しています。ただ内科に進む気は全くなく、自分で動いて何かできるという意味から外科に進みました。獨協医科大学に進学し、卒業後に勤務した獨協医科大学越谷病院では、手術ばかりしていましたね。

患者さんの顔が見える規模の病院経営

――130 年の歴史の中で 1968（昭和 43）年に有床病院となられたことが、最初の大きなステップですね。

68 年に医院を改築して、藤村外科医院となり、初めて 10 床の診療所となりました。当時は自宅も医院のすぐ裏にあって、そこで私も成長しました。76（昭和 51）年に藤村病院に改称し、36 床の増改築を行いました。当時、私は小学生でしたが、ベッドが一挙に約 4 倍となって「病院が大きくなったなあ」という実感が今も残っています。残念ながら、この頃の父との思い出は余りありません。父は患者さまの具合が悪いとなると、病院に寝泊まりして自宅に帰って来ない時も多かったのです。何もなければ、飲みに行っていたようです。

――100 周年を期に、大きな変革に乗り出しましたね。

85（昭和 60）年の創立 100 年を挟む時に現在の法人の基礎ができ上がったと思います。設備充

LEADER'S INTERVIEW COLUMN

医療法人 藤仁会

地域のみなさまの身近な存在であるために

理念

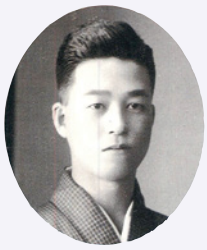
地域にやさしい「安心・信頼」の医療と介護

基本方針

- 地域の皆様に親しまれると共に、個人の権利を尊重し信頼される質の高い医療・介護サービスを 目指します。
- 保健・医療・福祉を通じ地域に貢献します。
- 地域の医療と介護の一体化を目指します。
- 職員の自主性と協調性を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共に出来る施設を目指します。
- 健全な経営の確保に努めます。

藤村医院および藤村病院歴代院長

初代 藤村 悠重（ながしげ）
1886 年開院



2 代目 藤村 茂（しげる）
1944 年就任

3 代目 藤村 秀（ひで）
1974 年就任

4 代目 廖（りょう） 英和（ひでかず）
2003 年就任
（06 年より名誉院長）

1968（昭和 43）年頃の藤村外科医院

LEADER'S INTERVIEW COLUMN

これからも、地域に根ざした医療を展開していきます。

藤村病院で急性期の治療を終了した後でも、退院後在宅での生活が困難な患者さまに対し、グループホーム・小規模多機能施設、介護老人保健施設等に入所していただき、リハビリを中心とした在宅復帰の支援をしてまいります。

更にその後も在宅サービスセンターでケアし、安心して日常生活を送れるようサポートしてまいります。

また、最近増加傾向にある癌難民に対応すべく藤村病院、老健施設、訪問看護が連携して癌患者さまの疼痛管理・化学療法・ターミナルケアなどを積極的に行っており、他施設で受け入れ困難な患者さまも積極的に受け入れています。

実のため全面改装を行ったのです。また健康診断業務・人間ドックを開始したのもこの年です。86年８月、定款変更により「医療法人藤仁会」となりました。

そして89年（平成元）年、新病院が落成し、119床、ＨＣＵ（高度治療室）２床を備える鉄筋コンクリート造、地上６階、地下１階のビルとなり、藤村病院は大きく生まれかわりました。

――89年に119床に拡大してから、その後100床規模を維持されていますね。

2008（平成20）年に医療療養型病棟を立ち上げた時に一部を改築し、一般病棟を76床に減少し療養病棟を26床開設しました。現在は急性期病棟64床、地域包括ケア病床８床、療養病棟26床の合計98床のケアミックス型の病院として運営し、89年の新病院落成時よりも病床数は減床しています。

お蔭様で各代の院長の時代から長きにわたり地域の皆様から選んでいただいてきたことは、当院の大きな強みです。130余年間に結ばれた地域との絆を将来もしっかりとしたものにしていくには、“患者さまの顔が見える医療現場、病院経営”が重要であるという考え方から、100床前後という規模が導き出された、当院としての一つの答えです。

グループ内で地域に根ざした医療・介護の一貫したサービス提供を目指す

――1990年代以降にいろいろな分野の設備を充実させていらっしゃいますね。

93年（平成５）年、訪問看護ステーション「ふれあいあげお」を開設し、続いて藤村病院付属健康管理センター、訪問介護支援センターを開設しました。

99年には　指定居宅介護支援事業所を開設しました。上尾市内には1960年代に建設された大きな団地がいくつもあり、以前から高齢化社会への対応を考えてきました。地域のニーズに応える形で、訪問看護や在宅介護などへの展開は、埼玉県内でも早い方だと理解しています。

2003年には廖英和（りょうひでかず）先生に４代目院長に就任していただき、私が副院長に就任しました。1990年代以降相次いで、介護分野での施設開設については、急性期の医療だけでなく医療から介護の一貫したサービスを藤仁会グループ内で地域に提供できたらという思いを実現させていったのです。

――2004（平成16）年の介護老人保健施設の立ち上げの際のお話を伺います。

04年２月に介護老人保健施設「ふれあいの郷あ

げお」を開設しましたが、立ち上げには大変苦労しました。私が大学病院からこちらに来て間もない時期でしたし、父も体調を崩していたので、新しいものに取り組むことに慎重になっていました。

そもそもこの施設を作るべきかから始まって、ではどの程度の規模とするのかなど職員たちといろいろと議論をしました。そして入所者数は一般60床、認知症40床、通所リハビリテーション40人でのスタートとなりました。介護保険制度が始まったばかりで、まさに手探り状態でした。

医療から介護という流れの中で、患者さまが困らない体制を考え、そのための場所を我々で作っていこうという最終判断で進めました。

職員にも「これは自分たちの組織だ」という意識をもってもらい、地域でも先駆けとなるかたちで介護老人保健施設「ふれあいの郷あげお」の開設にこぎ着けました。私が初代施設長に就任した次第です。

――地域包括ケアシステム構築に、リハビリテーションの充実もその取組みの一環ですね。

私どもは、国が進めている地域包括ケアシステムの構築については、在宅医療充実の必要性を強く感じています。そこで2018年に在宅医療支援病院の届け出をしました。

地域包括ケアシステムでは、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを可能な限り行っていく事が求められています。

そこで当院では、高齢者の方々のＡＤＬ（日常生活動作）やＱＯＬ（クオリティオブライフ）を向上させていくためにリハビリテーションの充実を図っています。理学療法士９名、作業療法士３名、言語聴覚士２名、助手１名の計15名で入院患者さまはもちろんのこと、外来リハビリ、訪問リハビリ、地域リハビリの業務を行っています。

――地域にやさしい医療と介護を実践している部署ですね。

入院中の急性期から訪問リハビリまでの生活期まで関わっている部署ですから、当法人の理念である“地域にやさしい「安心・信頼」の医療と介護”を実践しています。これからもリハビリテーションを通じて希望や喜びを患者さまだけなく地域の人々に感じていただけるようにしていきたいと思っています。

LEADER'S INTERVIEW COLUMN

地域包括ケア病床

2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケア・システム）の構築を国で推進しています。

このため、藤村病院においても今まで以上に地域医療に貢献できるように、地域を支える「急性期病院」として、また必要に応じ安心して継続的に医療の提供ができる「地域包括ケア病床」、そして「療養型病棟」を運営していくことで、地域の診療所や急性期病院の支えともなれるような法人経営をしていきます。

地域包括ケア病床のイメージ

手術や検査が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さまに対してしばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けての「準備を整える」ための病床です。地域包括ケア病床においては「在宅復帰支援計画」に基づき、主治医・看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー・その他メディカルスタッフが協力して支援を行い、在宅復帰を目指します。

LEADER'S INTERVIEW COLUMN

地域の皆様に日頃からの感謝を込めて

医療法人 藤仁会 藤村病院
藤仁会グループ共同開催

活き生き感謝祭

みんなで考える健康づくり元気モリモリプロジェクト

藤村病院の開院 130 周年を記念して、2016 年から開催しているイベントです。公開医学講座、医療・介護イベント（肺年齢測定、骨密度測定など）といった役に立つイベントの他、お子様向けブースでは「輪投げ」や「うまい棒つり」、「白衣・ナース服撮影会」を実施、さらに元気になる野菜たっぷり料理のレシピ コンテストなど盛りだくさんのイベントです。飲み物、駄菓子、風船、ヨーヨーつりなどが無料で提供されました。

上尾駅から徒歩 0 分 健康管理センター Ageo・town（エージオ・タウン）クリニック

――最近開院された健康管理センターと Ageo・town クリニックの特徴をお聞きします。

2013（平成 25）年に健康管理センター Ageo・town クリニックを上尾駅からペデストリアンデッキでアクセスできるビル内に開業し、おかげさまで順調に進んでおります。ここでは、一般・企業向け検診、人間ドック、脳ドック、上尾市検診等を行っており、毎年たくさんの方に受診していただいています。最近は脳梗塞、心筋梗塞の発症リスクが血液検査でわかる新しい検査も取り入れています。

――クリニック内に耳鼻咽喉科があるのは珍しいですね。

一般的に“人間ドック”のクリニックに耳鼻咽喉科があるのは珍しいと思います。耳、鼻、喉の診察の他、スギ花粉症の舌下免疫療法や睡眠時無呼吸症候群の検査、治療や補聴器相談、インフルエンザ・高齢者肺炎球菌の予防接種など年齢に関係なく幅広く対応し診察させていただいています。

医療法人藤仁会の 10 年後のあるべき姿

――では、医療法人藤仁会の将来の姿についてお伺いしたいのですが。

これまで 130 年間で培ってきた地域からの信頼をもとに恩返しの意味も込めて地域に根差した医療を展開し、より充実させていきたいと思っています。

まず言えることは、地域医療の拠点となる病院を中心に老健施設やグループホーム、在宅医療や健診などの各部門が一体となって地域貢献していくということが、140 年、150 年へとつながっていくものだと考えます。

特に介護や福祉については、介護老人保健施設「ふれあいの郷 あげお」、小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護「藤の郷 あげお」と、上尾市上尾南地域包括支援センター、指定居宅介護支援事業所ふれあいあげお、訪問看護ステーションふれあいあげおの 3 つの部門で運営されている「在宅サービス総合センター」が中心となって、今やっている“流れ”を継続的に実行していくことになろうと思います。藤仁会グループ内での患者さまへの対応の形を上尾市全体に広げていけたらとも考えています。急性期、慢性期、在宅・予防治療から介護や健診を含めた包括的なケアを中心として、地域の様々な方々と協力し、地域（上尾市）医療・福祉体制を構築していきたい。医療から介

護まで地域の皆さまが困らない流れを作っていくことです。

それには藤仁会グループだけでなく、市内の大病院からクリニックまで、それぞれの持ち場で連携していかなければなりません。連携のシステムを構築するなかで、中心的に寄与できれば良いですね。

――従業員やスタッフに向けて理事長として一言お願いします。

従業員やスタッフには、まず「みんなで地域貢献するんだ」という気持ちを忘れないでほしいですね。

多くの職員の方は、当院のホームページなどを見て地域貢献したいという気持ちで、皆さん入って来られます。しかし年月が過ぎ、仕事の専門性が高まってくると、各々の専門分野の中に閉じこもってしまうことが見受けられます。そこで「いっしょに仕事をやっているんだ。みんなで地域を支えているんだ。」という気持ちを忘れずに連携を取って仕事に取り組んでもらいたいですね。

取材後記

武蔵野銀行上尾支店
深野 支店長

明治 19 年、上尾市仲町に藤村医院として創業された、医療法人藤仁会様は「地域にやさしい安心・信頼の医療と介護」を理念として 130 年以上もの間、地域に大きく貢献されてきました。現在は 5 代目となる藤村作理事長様のリーダーシップの下で、グループ内の各施設の戦略的なネットワークによりその活躍の場を広げ、地域住民の健康・生活を支えておられます。

当行も地元金融機関として様々な分野で連携を深めさせていただき、お役にたてるよう努めて参ります。

またせっかく縁があって藤仁会の仲間となったわけですので、少しでも長く勤めてもらいたいと思います。

医療法人 藤仁会 藤村病院　概要

1886 年　藤村医院開設
1980 年　医療法人　藤村病院設立
1986 年　医療法人藤仁会に改称

グループ全従業員約 300 名（2019 年 4 月現在）

藤村病院
上尾市仲町 1-8-33　☎ 048-776-1111

健康管理センター A-geo･town クリニック
上尾市宮本町 3-2-209　☎ 048 -777-2511

介護老人保健施設 **ふれあいの郷あげお**
上尾市大字平方 1915　☎ 048-780-6600

居宅介護支援事業所 **ふれあい平方**
上尾市大字平方 1915　☎ 048-780-6600

小規模多機能型居宅介護事業所・認知症対応型共同生活介護事業所
藤の郷あげお
上尾市二ツ宮 897-4　☎ 048-793-5751

上尾市上尾南地域包括支援センター
上尾市仲町 1-8-32　☎ 048-777-3301

指定居宅介護支援事業所 **ふれあいあげお**
上尾市仲町 1-8-32　☎ 048-777-3320

訪問看護ステーション**ふれあいあげお**
上尾市仲町 1-8-5　☎ 048-776-1530

（取引店：上尾支店）